（１５）　レタス（結球レタス）

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 斑点細菌病 *Xanthomonas axonopodis* pv. *vitians*	1.育苗は風当たりの少ないところで行なう。 2.水稲の作付けは本病の発生を抑制する。 3.トンネル被覆は遅れないようにする。 4.凍霜害を避ける。 5.マルチを行い、土壌のはね上がりを少なくする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は、炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）を加用する。 2.結球期以降は汚れのおそれがあるので使用しない。 3.マスタピース水和剤は生菌のため、低温保存する。	定植時	P2	オリゼメート粒剤
		定植後から数回	M1	キノンドー水和剤４０
			M1	キノンドーフロアブル
			M1	キノンドー顆粒水和剤
			M1	ヨネポン水和剤
			－(生)	(生)マスタピース水和剤
			2･M1	(混)ロブドー水和剤
			24･M1	(混)カスミンボルドー
			24･M1	(混)カッパーシン水和剤
			31･24	(混)カセット水和剤
			31･M1	(混)ナレート水和剤
2 腐敗病 *Pseudomonas cichorii* *P. marginalis* pv. *marginalis* *P. viridiflava*	1.育苗は風当たりの少ないところで行なう。 2.水稲の作付けは本病の発生を抑制する。 3.トンネル被覆は遅れないようにする。 4.凍霜害を避ける。 5.連作を避ける。 6.発病株は早期に除去する。 7.排水を良好にする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.スクレタン水和剤、カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は、炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）を加用する。 2.銅水和剤及びその混合剤は、結球期以降は汚れのおそれがあるので使用しない。 3.マスタピース水和剤は生菌のため、低温保存する。	定植時	P2	オリゼメート粒剤
		定植後から数回	25	アグレプト水和剤
			25	マイシン２０水和剤
			31	スターナ水和剤
			U18	バリダシン液剤５
			M1	オキシンドー水和剤８０
			M1	キノンドー水和剤４０
			M1	キノンドー水和剤８０
			M1	キノンドーフロアブル
			M1	キノンドー顆粒水和剤
			M1	ドキリンフロアブル
			M1	ヨネポン水和剤
			－(生)	(生)マスタピース水和剤
			2･M1	(混)ロブドー水和剤
			M1･2	(混)スクレタン水和剤
			31･24	(混)カセット水和剤
			24･M1	(混)カスミンボルドー
			24･M1	(混)カッパーシン水和剤
			25･M1	(混)ドーマイシン水和剤
			31･M1	(混)ナレート水和剤
			M1･M5	(混)シトラーノフロアブル
			NC･M1	(混)ジーファイン水和剤
3 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.排水を良好にする。 2.水稲の作付けは本病の発生を抑制する。 3.ヨトウムシ、ナメクジ等の害虫を防除する。 4.発病株は早期に抜き取り、埋めるか、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.キンセット水和剤80は、石灰硫黄合剤との混用は避ける。 2.スクレタン水和剤には、炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）を加用する。 3.結球期以降は汚れのおそれがあるので使用しない。 4.マスタピース水和剤は生菌のため、低温保存する。	定植後から数回	31	スターナ水和剤
			U18	バリダシン液剤５
			M1	キノンドー水和剤４０
			M1	キノンドーフロアブル
			M1	キノンドー顆粒水和剤
			M1	ドキリンフロアブル
			M1	ヨネポン水和剤
			－(生)	(生)マスタピース水和剤
			M1･2	(混)スクレタン水和剤
			25･M1	(混)ドーマイシン水和剤
			31･M1	(混)ナレート水和剤
			31･24	(混)カセット水和剤
			M1･M1	(混)キンセット水和剤
			M1･M1	(混)キンセット水和剤８０
			M1･M5	(混)シトラーノフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

レタス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
4 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.アブラナ科野菜との連作は避ける。 2.発病株は早期に発見し、菌核ができる前に抜き取って処分する。 3.マルチを行う。 4.トンネル栽培では近紫外線除去フィルムを使用する。 5.夏期に湛水可能な圃地は、高温時に20日間以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病を対象にトップジンM水和剤、ベンレート水和剤で防除を実施しているところでは、斑点病の発生が少ない。 2.スクレタン水和剤は炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）を加用する。 3.本病を対象にアミスター20フロアブル、ベジセイバー、カナメフロアブルで防除を実施しているところでは、白絹病の発生が少ない。	発病前から	1 1 2 2 7 7 7 7 7 7 11 11 11 11 19 52 M7 M7 10･1 10･1 10･2 M1･2 11･7 7･M5	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 スミレックス水和剤 カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル ケンジャフロアブル パレード20フロアブル ネクスターフロアブル カナメフロアブル アミスター20フロアブル スクレアフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 メジャーフロアブル ポリオキシンAL水溶剤 アイーナ20フロアブル ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル (混)ゲッター水和剤 (混)ニマイバー水和剤 (混)スミブレンド水和剤 (混)スクレタン水和剤 (混)シグナムWDG (混)ベジセイバー
5 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.収穫残さは埋める。 2.マルチを行う。 3.トンネル栽培では近紫外線除去フィルムを使用する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.スクレタン水和剤は、炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）を加用する。 2.本病を対象にアミスター20フロアブル、ベジセイバー、カナメフロアブルで防除を実施しているところでは、白絹病の発生が少ない。	発病前から	1 1 2 2 7 7 7 7 11 11 19 52 M7 1･M5 10･1 10･1 10･2 M1･2 11･7 7･M5	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 スミレックス水和剤 カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル パレード20フロアブル カナメフロアブル アミスター20フロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ジオゼット水和剤 アイーナ20フロアブル ベルクート水和剤 (混)ダコレート水和剤 (混)ゲッター水和剤 (混)ニマイバー水和剤 (混)スミブレンド水和剤 (混)スクレタン水和剤 (混)シグナムWDG (混)ベジセイバー
6 すそ枯病 *Rhizoctonia solani*	1.水稲の作付けは本病の発生を抑制する。 2.マルチを行い、土が株にかからないようにする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病を対象にダコニール1000、アミスター20フロアブル、ベジセイバー、カナメフロアブルで防除を実施しているところでは、白絹病の発生が少ない。	発病前から	2 7 7 7 7 7 11 11 14 U18 M5 1･M5 11･7 7･M5 31･14 31･M1 40･M5 M1･M5	ロブラール水和剤 バシタック水和剤75 モンカットフロアブル40 パレード20フロアブル ネクスターフロアブル カナメフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 アミスター20フロアブル リゾレックス水和剤 バリダシン液剤5 ダコニール1000 (混)ダコレート水和剤 (混)シグナムWDG (混)ベジセイバー (混)ソターWDG (混)ナレート水和剤 (混)カーニバル水和剤 (混)シトラーノフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

レタス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
7 白絹病 *Sclerotium rolfsii*	1.連作を避ける。 2.被害茎葉は圃場外で処分する。 3.夏期に湛水可能な圃場は、高温時に20日以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。 4.輪作をする場合は、ナス科、ウリ科、アブラナ科、マメ科などを犯すので（多犯性）、作物選定に注意する。 5.発病圃場では籾殻は使用しない。	発生初期	7 7 14	アフェットフロアブル モンカットフロアブル４０ リゾレックス水和剤
8 バーティシリウム萎凋病 *Verticillium tricorpus* *V. dahliae*	1.発病株は抜き取って圃場外で処分する。 2.圃場の排水を良好にする。 3.トラクター等の農機具や長靴等の洗浄・消毒を徹底する。	定植時	32	タチガレン液剤
9 べと病 *Bremia lactucae*	1.マルチ栽培を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発病初期 1.キノンドー水和剤、ヨネポン水和剤、シトラーノフロアブル、フェスティバルC水和剤は、結球期以降は汚れのおそれがあるので使用しない。 2.本病を対象にダコニール1000、アミスター20フロアブル、ベジセイバーで防除を実施しているところでは、白絹病の発生が少ない。	定植当日	43･40	(混)ジャストフィットフロアブル
		発病初期	11 11 21 21 40 M1 M1 M5 1･M5 4･M5 7･M5 11･7 43･40 45･40 40･M1 40･M5 M1･M5 21･49 49･11 49･40	アミスター２０フロアブル メジャーフロアブル ランマンフロアブル ライメイフロアブル レーバスフロアブル キノンドー水和剤４０ ヨネポン水和剤 ダコニール１０００ (混)ダコレート水和剤 (混)フォリオゴールド (混)ベジセイバー (混)シグナムＷＤＧ (混)ジャストフィットフロアブル (混)ザンプロＤＭフロアブル (混)フェスティバルＣ水和剤 (混)カーニバル水和剤 (混)シトラーノフロアブル (混)ゾーベックエンテクタＳＥ (混)ゾーベックエンカティアＳＥ (混)オロンディスウルトラＳＣ
10 ビッグベイン病 （ＭｉＬＢＶＶ）	1.耐病性品種を作付けする。 2.発生圃場では、秋か春に収穫する作型を選ぶ。 3.圃場の排水を良好にする。 4.トラクター等の農機具や長靴等の洗浄・消毒を徹底する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.フロンサイドＳＣは軟腐病にも登録がある。	播種または定植前	29	フロンサイド粉剤
		定植前	29	フロンサイドＳＣ
		定植時	1 11 M5	トップジンＭ水和剤 アミスター２０フロアブル ダコニール１０００
11 アブラムシ類 （モザイク病 ＣＭＶ ＬＭＶ）	1.苗床では防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 2.ＬＭＶは種子伝染するので、種子は健全なものを使用する。 3.発病株は早期に処分する。 4.シルバーポリマルチ、シルバーストライプマルチをする。	播種前	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		播種覆土後～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半	4A 4A 4A 4A	アドマイヤー１粒剤 アクタラ粒剤５ ダントツ粒剤 ベストガード粒剤
		育苗期後半～定植当日	28 28 28 28･4A 4A･28	プリロッソ粒剤オメガ ベリマークＳＣ ヨーバルフロアブル (混)ジュリボフロアブル (混)アベイル粒剤
		定植前日～定植当日	4A	モスピラン粒剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

レタス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
	●発生初期 1.本虫対象に防除を実施しているところでは、ヒメフタテンヨコバイの発生が少ない。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.セフィーナＤＣは展着成分を含むため展着剤の加用は必要ない。	定植前日 ～定植時	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			28･4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
		定植時	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		発生初期	1B	オルトラン水和剤
			3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンＥＷ
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			9D	セフィーナＤＣ
			21A	ハチハチ乳剤
			21A	ハチハチフロアブル
			23	モベントフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
			29	ウララＤＦ
			3A･1B	(混)ハクサップ水和剤
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル
			23・28	(混)ヨーバルターボフロアブル
12 ヒメフタテンヨコバイ （萎黄病 *Phytoplasma*）	1.苗床では防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 2.発病株は早期に処分する。	育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半 ～定植当日	28	ベリマークＳＣ
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
		発生初期	21A	ハチハチフロアブル
13 アザミウマ類	1.畦畔雑草を除去する。	発生初期	30	グレーシア乳剤
			34	ファインセーブフロアブル
			34	アベンジャーフロアブル
14 ヨトウムシ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.苗床では飛び込み軽減のため、防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 〈薬剤使用の特記事項〉 ●若齢幼虫期 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、圃場をよく見回り、若齢期に防除する。	育苗期後半 ～定植当日	28	プレバソンフロアブル５
			28	ヨーバルフロアブル
			4A･28	(混)アベイル粒剤
			4A･28	(混)ジュリボフロアブル
		定植前日 ～定植時	4A	モスピラン粒剤
		若齢幼虫期	1B	オルトラン水和剤
			1B	ジェイエース水溶剤
			3A	バイスロイド乳剤
			4E	フィールドマストフロアブル
			5	スピノエース顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			15	カスケード乳剤
			22A	ファイントリムＤＦ
			22A	トルネードエースＤＦ
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	ベネビアＯＤ

レタス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
			28	プレバソンフロアブル５
			30	ブロフレアＳＣ
			4E・28	(混)フェニックスマストフロアブル
			5･18	(混)ファルコンエースフロアブル
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル
			23・28	(混)ヨーバルターボフロアブル
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
15 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.苗床では飛び込み軽減のため、防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、圃場をよく見回り、若齢期に防除する。 2.薬剤感受性の低下が見られる地域があるので注意する。	育苗期後半 ～定植当日	28	プレバソンフロアブル５
			28	ベリマークＳＣ
			28	ヨーバルフロアブル
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
		定植前日 ～定植時	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			28･4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
		発生初期 (若齢幼虫期)	4E	フィールドマストフロアブル
			5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			13	コテツフロアブル
			15	ノーモルト乳剤
			15	アタブロン乳剤
			18	ファルコンフロアブル
			22A	ファイントリムＤＦ
			22A	トルネードエースＤＦ
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ベネビアＯＤ
			28	ヨーバルフロアブル
			30	ブロフレアＳＣ
			UN	プレオフロアブル
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル
			23・28	(混)ヨーバルターボフロアブル
16 シロイチモジヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.苗床では飛び込み軽減のため、防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期(若齢幼虫期) 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、圃場をよく見回り、若齢期に防除する。 2.薬剤感受性の低下が見られる地域があるので注意する。	育苗期後半 ～定植当日	28	ベリマークＳＣ
		発生初期 (若齢幼虫期)	22A	トルネードエースＤＦ
			22A	ファイントリムＤＦ
			28	ベネビアＯＤ
			30	グレーシア乳剤
			30	ブロフレアＳＣ
			UN	プレオフロアブル
17 オオタバコガ	1.幼虫は見つけしだい捕殺する。 2.苗床では飛び込み軽減のため、防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期（若齢幼虫期） 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので注意する。	播種覆土後～ 育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半 ～定植当日	28	プレバソンフロアブル５
			28	ヨーバルフロアブル
			28	ベリマークＳＣ
			28	プリロッソ粒剤オメガ
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			4A･28	(混)アベイル粒剤
		育苗期後半 ～定植時	28	プレバソン粒剤
		定植前日 ～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		定植前日 ～定植時	28･4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
		定植当日	4A･5	(混)ガードナーフロアブル
		定植時	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤

レタス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
		発生初期 (若齢幼虫期)	1B 1B 5 5 6 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 13 18 22A 22A 22B 28 28 28 28 28 30 UN 28･4A 5･18 21A･22B 4E･28 23･28	オルトラン水和剤 ジェイエース水溶剤 スピノエース顆粒水和剤 ディアナSC アファーム乳剤 アニキ乳剤 トアローフロアブルCT ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF フローバックDF エコマスターBT チューンアップ顆粒水和剤 サブリナフロアブル ジャックポット顆粒水和剤 コテツフロアブル ファルコンフロアブル ファイントリムDF トルネードエースDF アクセルフロアブル フェニックス顆粒水和剤 フェニックスフロアブル プレバソンフロアブル5 ベネビアOD ヨーバルフロアブル ブロフレアSC プレオフロアブル (混)ジュリボフロアブル (混)ファルコンエースフロアブル (混)アクセルキングフロアブル (混)フェニックスマストフロアブル (混)ヨーバルターボフロアブル
18 ネキリムシ類	1.被害株周辺を軽く掘り、幼虫を見つけしだい捕殺する。 2.作付け前の圃場の除草処理を徹底する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●育苗期後半～定植当日 1.ジュリボフロアブルは、カブラヤガにのみ登録がある。 ●定植前日～定植時 1.キックオフ顆粒水和剤は、カブラヤガにのみ登録がある。	播種時 又は植付時	1B 1B	カルホス粉剤 カルホス微粒剤F
		播種時又は定植時～生育初期	1B 1B	カルモック ネキリエースK
		播種覆土後～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28 28･4A	プレバソンフロアブル5 (混)ジュリボフロアブル
		定植前日～定植時	28･4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
		定植前	3A	フォース粒剤
		定植時 (植付時)	1B･1A 28･4A	(混)ランダイヤ粒剤 (混)ミネクトデュオ粒剤
		生育初期	3A 22B	ガードベイトA アクセルベイト
19 ナメクジ類	1.除草や残さ処理などにより、多湿で有機物の多い圃場環境を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本虫対象にパダンSG水溶剤で防除を実施しているところでは、アブラムシ類の発生が少ない。	発生初期	14 14 － －	パダンSG水溶剤 リーフガード顆粒水和剤 ナメクリーン3 マイキラーL

レタス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
20 ナモグリバエ	**〈薬剤使用の特記事項〉** ●播種覆土後～育苗期後半 1.ミネクトデュオ粒剤はハモグリバエ類に登録がある。 ●育苗期後半～定植当日 1.ベリマークＳＣ、プレバソンフロアブル５、ヨーバルフロアブル、プリロッソ粒剤オメガはハモグリバエ類に登録がある。 ●定植前まで 1.スピノエース顆粒水和剤はハモグリバエ類に登録がある。 ●定植時 1.ミネクトデュオ粒剤はハモグリバエ類に登録がある。 ●発生初期 1.本虫対象にパダンＳＧ水溶剤で防除を実施しているところでは、アブラムシ類の発生が少ない。 2.ディアナＳＣ、パダンＳＧ水溶剤、プレバソンフロアブル５、ベネビアＯＤ、ヨーバルフロアブルはハモグリバエ類に登録がある。	播種前	4A	アクタラ粒剤５
		播種覆土後～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半	4A	アクタラ粒剤５
			4A	ベストガード粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ヨーバルフロアブル
			28	プレバソン粒剤
			28	プリロッソ粒剤オメガ
			4A･28	(混)アベイル粒剤
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
		定植３日前～定植当日	4A･5	(混)ガードナーフロアブル
		定植前日～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		定植前日～定植時	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			28･4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
		定植前まで	5	スピノエース顆粒水和剤
		定植時	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		発生初期	4A	ダントツ水溶剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4E	フィールドマストフロアブル
			5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			13	コテツフロアブル
			14	パダンＳＧ水溶剤
			14	リーフガード顆粒水和剤
			21A	ハチハチ乳剤
			21A	ハチハチフロアブル
			28	プレバソンフロアブル５
			28	ベネビアＯＤ
			28	ヨーバルフロアブル
			UN	プレオフロアブル
			28･4A	(混)ジュリボフロアブル
			21A･22B	(混)アクセルキングフロアブル
			4E・28	(混)フェニックスマストフロアブル
			23・28	(混)ヨーバルターボフロアブル